

世界遺産アカデミー認定講師 File No.7

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓もう活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第7回は世界遺産スペシャリスト、通訳案内士としてご活躍され、「語り部」として世界遺産に関わる活動をされている志水武雄(しみず・たけお)さんです。

——人生3つのキーワード、外国、 外国語(英語)、外国人

僕の人生には、一貫して、3つのキーワードがあります。外国、外国語(英語)、外国人、です。遊べば高校2年生の当時、海外に行くのは簡単ではない時代でしたが、僕は世界で活躍することを決意しました。独学で英語を勉強し、大学時代に通訳案内士を取得。卒業後は商社に就職したのですが、英語を遣わない業種に満足できず退社。とにかく英語のブロになるようと、旅行会社、JICAなど、英語を遣える仕事を自ら選択し、その後、シカゴに本社を持つ米国企業に20年間勤めました。JICA時代には、

主に日産と連携した自動車技術関係の仕事でしたので、工業技術だけでなく、色々な分野の英語を習得できました。南アフリカや中近東、アジア、中南米など様々な人たちと出会い、地方色のある各地の英語を実践で身につけました。

40代の時に、通訳事務所を興しました。当時の日本はバブルで、各企業が技術者を海外に派遣し、国際市場を開拓させていました。これまで現場で鍛えられた技術関係の英語を活かし、技術者に同伴し現地で通訳をしていました。最初はアメリカが主でしたが、ヨーロッパに英語が共通言語として広まり始めると、そちらにも。また後進国で国際会議の要請があれば、そちらにも赴きました。休日には、日

本の技術者たちを連れて、あちこち観光もしましたが、多い時には、1年の2/3以上は海外で過ごしていました。300回以上渡航して、100カ国以上でしょうか。当時は世界遺産を意識していませんでしたが、後になって数えてみると、170カ所ぐらい訪れていたわけです。

60代に入り日本が不景気になり、海外出張が少なくなると、思い切って通訳市場を国内に替えました。会議や商談の通訳の傍ら、通訳案内士の資格を活かし、外国人観光客向けのガイドの仕事を始めました。しかしながら、65歳を迎えた時に、このままの人生で良いのだろうか?もう一つ満足感がない。若い時に立てた自分の目標が実現したのである

うか、と、模索していました。

こんな時に、読売新聞に掲載されていた世界遺産検定の記事を見つけました。これこそ、たくさんの国で、たくさんの人々に会ってきた僕の経験を、もっと社会に役立てることに成ると直感しました。

——「語り部」として、 何を語っていくのか

世界遺産を通して自分の知識や経験を伝えられたら、社会に貢献できるのではないかとこれはライフワークになる、と直感しました。そうして世界遺産について本格的に勉強し始めたのが67歳で、69

歳でマイスターになりました。もともと歴史好きだったので、入りやすい面もありました。特にヨーロッパを訪れる際は、頭の中に歴史が入っていると、場所と場所の繋がりに気づきます。パズルが組み合わさるのです。そして、70歳からアウトプットの人生へとステージが切り替わりました。新しい天職への道が拓いたので。現在、僕は「語り部(cultural ambassador)」として、人と人との交流や繋がりを語っていきたくと思っています。「心の中に平和の砦を築く」というユネスコ憲章の精神に謳われているように、世界遺産を通して互いの文化を交流し、多様性を理解して平和を広めることが根幹だと考えています。UNESCOの「C」は、cultureで

あり、communicationを意味します。バルト3国が日ソ連から無血で独立を勝ち取った時、彼らは国境を越えて手を取り合い、歌を唄い平和を手にしました。異なるcultureの人々がお互いにdefense of peace(平和の砦)を確立し、その心を繋ぎ平和な世界(Human Chains of Peace)を広げて行くものとして、世界遺産が存在するのです。

世界遺産アカデミー認定講師としては、常に新しい情報を得るのはむろんのこと、話す技術やテクニックも重要です。自分自身が世界遺産に惹き付けられた部分を前面に出すと、説得力が加わります。僕自身の場合には、現地の人たちから直接お話を伺って得た情報を語ることで、特色を出しています。

具体的な話し方については、マイクの使い方も含めて訓練する必要があるため、そのために仲間たちと「語り部の会」を設けています。自分の好きな題目と発表時間を選んでプレゼンテーションし、レビューをもらうのです。

世界遺産仲間との繋がりを造るために「世界遺産クラブ」を、また、最近、「世界遺産世田谷倶楽部」を創設しました。先日は、「倶楽部」のメンバーと新疆ウイグル自治区から来日した、東京大学大学院の留学生からシルクロードにまつわる世界遺産の話聞き、交流を深めました。この倶楽部が縁で、富岡

製糸場を世界遺産登録に推進されている方も出会いました。「クラブ」では世界遺産仲間と繋がりが、「倶楽部」では世界遺産を通じて得られたものを自ら発信できます。どちらも僕にとって大切な存在です。

世界遺産をきっかけとして、新たに踏み出した僕の人生は今、非常に充実しています。世界遺産を通して、人と人との繋がりを広げていく自分のライフワークが、発展し続けているのを実感しています。

現在のままの人生を進めて行くことが、仲間と共に豊かな夢を広げ、それを現実のものとしていける事を確信しています。



「語り部ジョージ」こと
志水さんの似顔絵(漫画家 政岡としや)